

「手作り石けん」と「市販のシャンプー剤」の比較

「手作り石けん」と「市販のシャンプー剤」

主な違いは、汚れを落とす成分である「界面活性剤」の種類です。

手作り石けんに含まれる「天然界面活性剤」と、
市販のシャンプー剤に含まれる「合成界面活性剤」
どこが違うのか、比べてみました。

※ 表の手作り石けんはゆう工房のせっけんに限ります。

	 天然（手作り石けん）	 合成（シャンプー剤）
肌への刺激	優しい	強い
肌への浸透 ・残留	しない	する（肌によくない）
洗浄力	調整できる	強い
保湿性	高い	低いため、添加する
Ph（ペーハー）	弱アルカリ性 （犬の肌に近い）	多くは弱酸性 （人の肌に近い）
原材料	天然の食用オイル	合成界面活性剤、脂肪酸エステル系、アミノ酸系、高級アルコール系
目的	皮膚を洗浄する （犬のため）	手触りをよくする いい香りにする（人のため）
環境への安全性	微生物が速やかに分解する	分解性がない



手作り石けんのメリットとデメリット

メリット	デメリット
刺激が少なく肌に優しい	手に入りにくい
肌に浸透しない	市販品が少ない
さっとすすげる	比較的に高価
皮脂膜の代わりを作り、バリア機能を守る	泡立ち、泡持ちがよくない
適度な洗浄力	種類が少ない
保湿力が高い	使用や保管に一手間かかる



シャンプー剤のメリットとデメリット

メリット	デメリット
手に入りやすい	刺激が強い
市販のほとんどを占める	肌の深部に浸透しやすい（経皮毒の吸収）
比較的に安価	十分にすすいでも肌に残る
泡立ちがいい	肌の上で皮脂を流し続け、バリア機能を低下させる
薬用や美容など種類が豊富	強力な脱脂力と洗浄力を持っている
目に染みないなどの特徴を持つものもある	肌のタンパク質を変性させて溶かしてしまう

合成界面活性剤入りの市販のシャンプーを使うということ

市販のシャンプー剤は手軽にどこでも買えるため、犬を初めて飼われる場合など特に、ペットショップや量販店、ホームセンターのペットコーナーなどでシャンプー剤を選ばれるのが普通だと思います。

しかし、合成の界面活性剤を使い続けると、皮膚の上に「合成の界面活性剤」が残り続け、正常な皮膚のタンパク質（セラミドやコラーゲン、エラスチンの元など）を溶かし、バリア機能を低下させ続けます。

人間のまぶたほどの薄さしかない犬の皮膚で、どんな種類の合成界面活性剤を使っているか不明、どんな種類の合成の添加物が含まれているか不明なものを使う。

もしかするとそれは工業用の原材料で、とても刺激の強いものかもしれません。

犬のシャンプー剤は法律上「雑貨扱い」のため、内容成分の表示義務がありません。

そのため、有害なものが含まれていたとしても記載しなくていいのです。



実際にペットコーナーで10種類以上のシャンプー剤の裏の表示を見てみました。

有効成分や薬用成分、いい香り、つやつやの被毛、などの耳障りの良い文句が並んでいるばかりで、肝心の原材料について書いてあるシャンプー剤は2種類ほどしかありませんでした。



そもそも手作り石けんとは、目的が全く違うのです。

- きれいな見た目といい香りにするシャンプー剤。
- 犬の皮膚をきちんと洗う手作り石けん。

そんな市販のシャンプー剤を使い続けると、お肌の丈夫な子でも、どんなお肌になってしまうか想像するのは難しいことではないと思います。

元々持っている、肌の力を弱らせ、アレルギー反応を起こしやすく、乾燥したり、乾燥しすぎて皮脂が過剰分泌したりするような、痒みのあるお肌になってしまう子がとても多いのです。

できることならそうなる前に気がついてあげたいですが、なかなか難しいため、トラブルが起きてからでも、一度市販のシャンプーを使うことについて、ちょっと立ち止まって考えてもらえたらと思います。

そして、そのトラブル肌から抜け出す手助けの一つとして、手作り石けんがお役に立てることを願います。